

# キッズ陶芸 開催しました！

彦根市荒神山自然の家自主事業として、昨年に新企画で行った、キッズ陶芸教室。年度がかわった令和4年4月16日土曜日に開催しました。

昨年度が初めての取り組みで昨年度と同様に、午前と午後の部をそれぞれ半日単位で計画しました。今回は、保護者のサポートを受けながらオリジナルのカレー皿づくりを企画しました。

まず、直径30cmほどの円盤状の粘土(材質は、なみこし粘土のみ)に、なみこし粘土と赤土粘土を1:2の割合で混ぜ合わせた粘土で模様や図柄を貼り付け埋め込んでいきます。粘土を1:2の割合で混ぜ合わせるのは粘土と粘土で収縮率が違うため、その部分からひび割れたりするのを防ぐ意味合いがあります。

大人ならさて、どのような図柄にと悩むところですが、そこは思い切りのいいキッズ達。思い思いで、粘土を紐状にしたり、平らにしたり、時には型で粘土にマーキングをしたりと手際よく進めていったのには感心しました。その後、貼り合わせた粘土を円盤状の土台に埋め込むために、



厚さ7mmのガイドバーを横に置き、のし棒で上から押しつけるように転がしながら粘土を埋め込みます。この作業は、やはりキッズでは難しく、保護者や所員のサポートを受けながらしっかりと粘土に埋め込みました。しかし仕上げは自分がしたいというキッズもいてコロコロ転がしながらも力を込めた作業に、カレー皿作成の意気込みを感じました。



絵や文字など思い思いのものができあがり、何を作ったのか尋ねてその答えに納得。キッズ達の想像力のたくましさにも所員一同感心していました。

続いて、できあがった円盤状の粘土をお皿に加工する手立てとして、ボール鉢を裏返してその上にかぶせてかたどります。ここは、大人の手を借りて、そっとボール鉢にかぶせました。なぜなら、この段階で余分なところに力が入り形を崩したり、薄くなったり、かぶせて再度やり直すときにいびつになったりするので慎重にしないとイケないからです。そっと置くとき、横で見ているキッズ達も思わず肩に力が入っていたと感じたのは、決して所員だけではないと思います。



最後に、お皿にかたどった粘土を、自然の家で焼き上げて完成。

今回2度目のキッズに焦点化した陶芸でしたが、問い合わせの段階でかなりの方が興味を持っ

ておられることがわかりました。人数の都合で、惜しくもご参加いただけなかった方々もおられ申し訳なく感じています。次回の検討課題として考慮したいとともに、大変ありがたく思っています。



今後も、子どもたちを含めて幅広い年代の方々が、荒神山自然の家に来て、たくさんの友だちと楽しい時間を過ごしたり、新しい出会いがあったり、趣味や特技を伸ばしたりなど楽しい企画を考えてお待ちしております。また、陶芸教室もさまざまな趣向を凝らした企画を展開するなど新しいジャンルにも果敢に広げていきたいと考えております。

ぜひ荒神山自然の家自主事業においでください。皆様のおいでをスタッフ一同お待ちしております。

